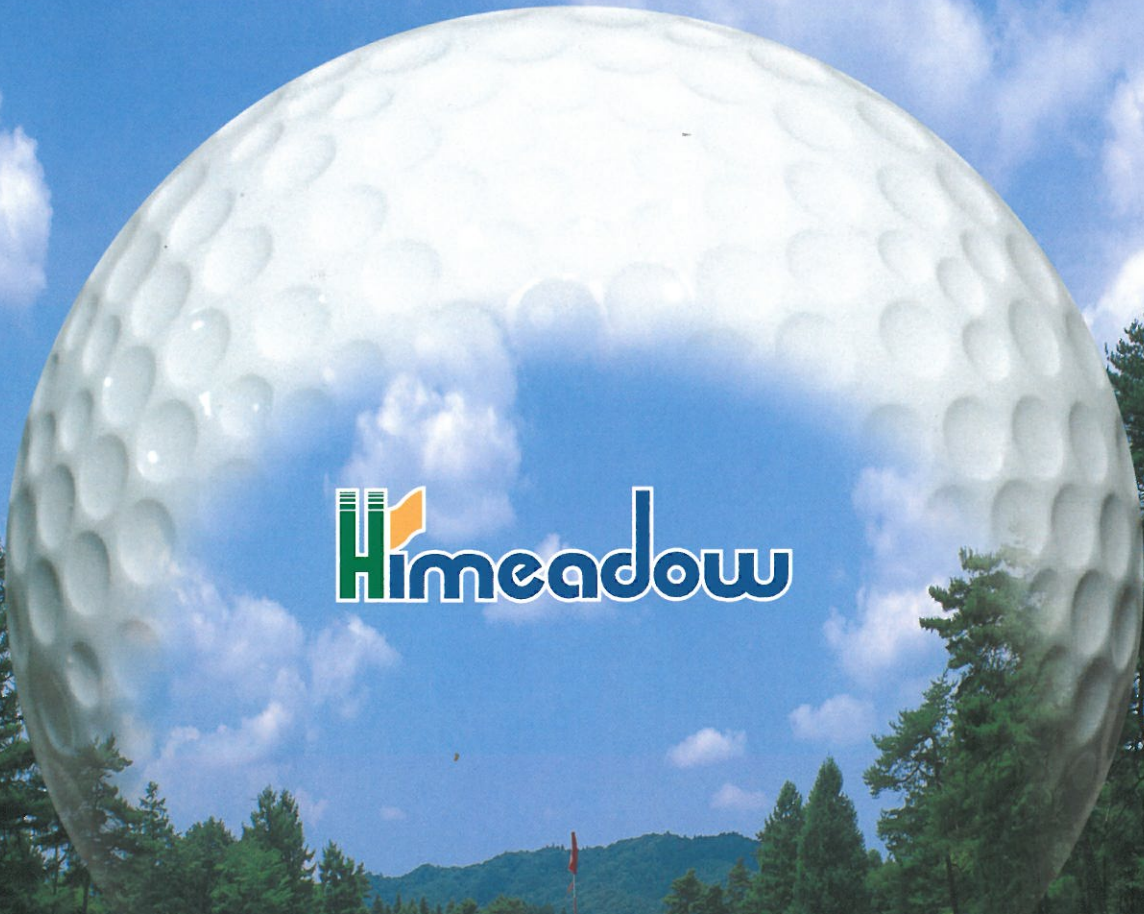


芝生用除草剤



日産

ハイメドウ®フロアブル



Himeadow

**芝へのやさしさはそのままに、
使いやすいフロアブルが新登場**



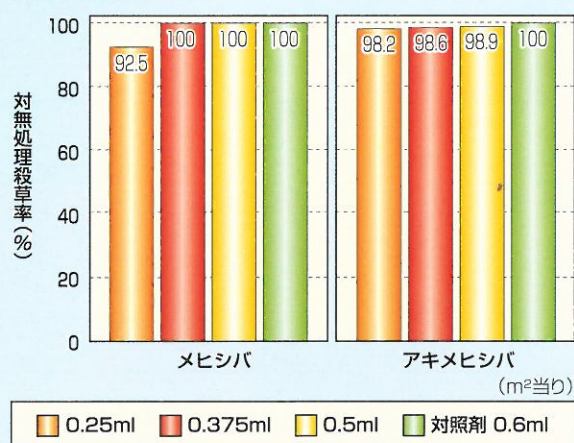
日産化学

● 特長および作用特性

- 製 剤……扱いやすいフロアブル
- 対 象 雑 草……メヒシバ、アキメヒシバ、スズメノカタビラ等のイネ科雑草に有効です。
- 日本芝への影響……茎葉部、根部、ランナーの生育には影響が少なく、選択性の高い薬剤です。
- 使 用 時 期……雑草発生前の土壌処理で優れた除草効果を発揮します。
- 残 効 性……春期処理で約80～100日、秋期処理で約120～150日の残効が確認されています。
- 殺草メカニズム……雑草の基部、根部から吸収され、蛋白質の生合成過程の阻害が考えられています。
- 土壌中での動態……土壌への吸着が強く、移動性は極小です。
- 周辺樹木への影響……通常の散布では周辺の樹木には殆ど影響を与えません。
- 寒冷地型洋芝……薬害の恐れがあるので使用しないで下さい。ただし、本剤は茎葉部からの吸収が殆どありませんので、ベントグリーン周辺からの踏み込み薬害や飛散薬害は認められていません。

● 効果試験例

● 春処理例



コウライシバ

処 理 日：平成8年4月19日

調 査 日：平成8年7月25日(処理後97日)

試験場所：東日本グリーン研究所

散布水量：250ml/m²

処理時の状態(シバ)：生育初期

// (雑草)：発生前

● 秋処理例



コウライシバ

処 理 日：平成8年10月5日

調 査 日：平成9年3月4日(処理後148日)

試験場所：静岡県Aゴルフ場

散布水量：250ml/m²

処理時の状態(シバ)：生育終期

// (雑草)：発生前

● 芝生に対する影響

	0.25ml	0.375ml	0.5ml	ハイメドウ水和剤0.3g
ランナー伸長	●	●	●	●
各節からの発根	●	●	●	●

●：正常 ×：影響あり

ノシバ

処 理 日：平成9年6月5日

調 査 日：平成9年7月16日(処理後41日)

試験場所：静岡県農業試験場高冷地分場

散布水量：200ml/m²

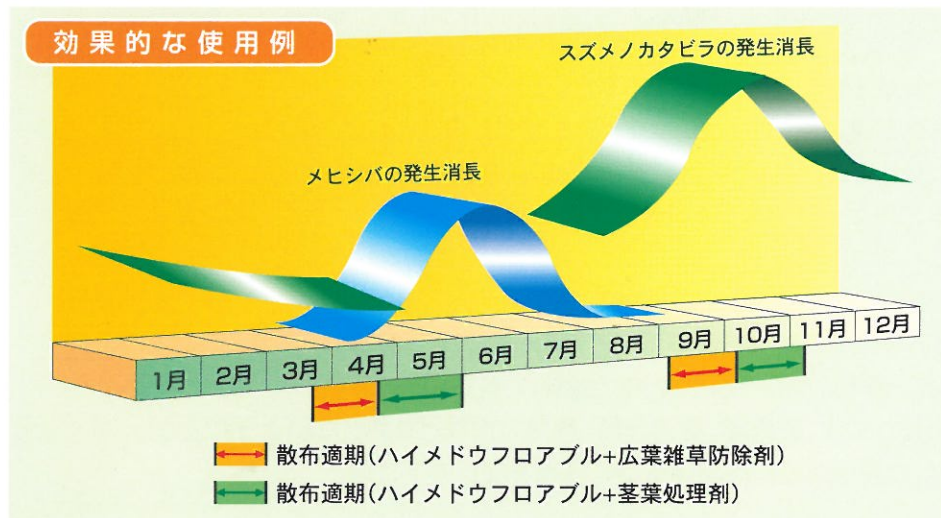
処理時の状態(シバ)：生育期

// (雑草)：発生前

● 上手な使い方

● 1. 処理時期

- 本剤は雑草の発生する前に散布して下さい。
- 処理薬量は0.35ml/m²が効果的ですが、ターフ形成が十分で雑草の発生密度が低い場合0.3ml/m²でも有効です。
- イネ科雑草の発生後の場合は、茎葉処理剤を混用散布して下さい。(処理適期幅の拡大が可能)



● 2. 広葉雑草対策

本剤はキク科雑草など一部の広葉雑草に対しては効果が劣りますので、これらの雑草が予測される場合は、インプールなどの薬剤と合わせてご使用ください。

● 3. 使用場面

芝に対する影響が小さいハイメドウだから、さまざまな場面でお役立てください。



…根、ランナーに影響が少ないため、ターフクオリティが向上します。



…踏圧損傷の回復が容易です。



…芝付きがスムーズとなります。グリーンに直接散布しなければ、踏み込みによる薬害はありません。



…傷んだターフの回復が容易です。

● 適用雑草と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		カフェンストロールを含む農薬の総使用回数	使用方法
			薬量	希釈水量		
日本芝	一年生イネ科雑草	雑草発生前	250～500ml	200～300L	2回	全面土壌散布

(500ml×12本)

● 効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬剤を調製し、使い切ってください。
- 本剤の所定量を所定量の水にうすめ、よくかきまぜてから散布して下さい。
- 発芽後の雑草に対しては効果が劣るので、必ず雑草発生前に時期を失ないように散布して下さい。
- キク科雑草には効果が劣るので、それらの優占するところでは、これに有効な薬剤との組み合わせで使用して下さい。
- 乾燥時は、水量を多めにして散布して下さい。
- 洋芝に対して薬害を生ずるおそれがあるので使用しないで下さい。
- 周辺の作物、草花、樹木にかからないように注意して散布して下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合や異常気象時は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けて下さい。

● 安全使用上の注意

- 保 管……………密封し、直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所。
- 魚 毒……………● 水産動植物（藻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用すること。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきること。散布器具及び容器の洗浄水は河川等に流さないこと。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理すること。

● 有効成分・物理化学性・安全性等

● 種 類 名

カフェンストロール水和剤

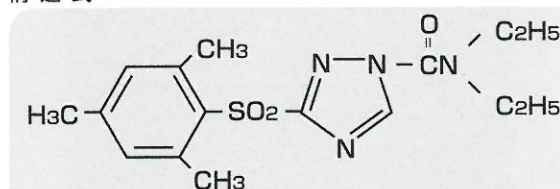
● 有効成分

N,N-ジエチル-3-メチルスルホニル-1H-1,2,4-
-トリアゾール-1-カルボキサミド 40.0%
水、界面活性剤等 60.0%

● 物理化学的性状

外 観 類白色水和性粘稠懸濁液体
融 点 114～116℃
水溶解度 2.5ppm (20℃)
蒸 気 圧 3.98×10^{-7} mmHg (20℃)

● 構 造 式：



● 製剤の安全性

普通物

急性経口毒性 (LD₅₀) ラット♂♀ 5,000mg/kg以上
マウス♂♀ 5,000mg/kg以上
急性経皮毒性 (LD₅₀) ラット♂♀ 2,000mg/kg以上
魚毒性 (LC₅₀, 96時間) コ イ 3.8ppm
(LC₅₀, 24時間) オオミジンコ 1,000ppm以上

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。
● 空容器は圃場などに放置せず、適切に処理して下さい。

販 売

取扱店

 **日産化学工業株式会社**

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-7-1 TEL:03-3296-8021